施工

No. 12-060-2019作成

新築 事務所/物販/飲食

発注者 京都経済センター(仮称)整備共同事業体

設計·監理 大成建設株式会社関西支店一級建築士事務所

大成建設株式会社関西支店

カテゴリー

A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO₂技術 C. 各種制度活用

D. 評価技術/FB

G 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携

F 長寿命化 I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他

「京都経済百年の計」にふさわしい「交流と賑わい」を創出した京都創生のシンボル

F リニューアル



京都経済百年の計により結集

これまで京都市内の各所に点在していた 経済団体が、「京都経済百年の計」として、 ビジネスの中心地である四条室町に集結 する事で、様々な知恵を融合し新たな価 値を生み出す「交流と賑わい」の場とし て計画された施設である。「泉古水新 百花斉放」のコンセプトに基づき、伝統 的な風格と新しいイメージを感じさせる 地域産木材を使用したデザインとした。 交通の結節点の立地から多くの人々を繋 ぐ場所として建物内外に工夫を散りばめ た計画となっている。京都中心地区では 初となるオープンバルコニーを実現し、 建物から街へと賑わいが広がっていく事

四条室町から見る祇園祭の風景





三つの「カタチの作法」による屋外空間の創出

京都の伝統建築に多く見られる三つの「カタチの作法」により、建物を構 築しました。四角いボリュームから「えぐり」「ほり」「ひけ」の操作を行 う事で、屋外空間を創出します。この開かれた屋外空間は建物から街へと 賑わいを創出するとともに、街からの人の流れを中へと引き込む効果をも たらしてくれます。

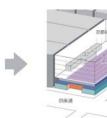
一方で、屋外空間を作ることで、外気を内部に引き込む事につながり、京 都の伝統建築で見られる縁側のような半屋外空間は中間領域として、日除 けや熱負荷低減、新鮮外気導入など多くの環境貢献をもたらせます。











建築を創る造形ダイアグラム

建物データ

京都府京都市 所在地 2019 年 竣工年

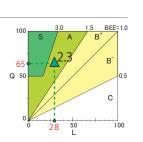
敷地面積 4, 391m² 延床面積 29. 096m²

構造 RC+S造一部SRC造 階数 地下2階、地上7階

省エネルギー性能

BPI 0.84 BEI 0.56 LCCO2削減 35 %

CASBEE評価 Aランク BEE=2. 3 2018年度版 自治体提出



京都の強烈な西日を抑制する開口率低減のデザイン

京都の高さ規制の厳しい環境に建つ建築に不可欠な西日対策として、ダブルスキンやルーバー制御のような装飾は行わず、約100 mの長大な壁面を細かく分節する計画とした。6400 スパンにそれぞれ大きさの違う8種類の窓をデザインし、ランダムに表現した。 最小 3200 モジュールの壁面に対し 40%というルールを設け、全体の開口率を 40%に抑える事で、熱負荷低減を実現しました。



-- 交流スペース

3200 3200 3200 3.2 モジュールで開口率 40% 40%の開口率の外装デザイン

長大な西側外観

・全館LED照明の採用

昼光利用・照度一定制御

・事務室内換気のCO2濃度制御

人成センサー制御

• T-GreenBEMS lite

京都の伝統から昇華したパッシブな環境デザイン

約100メートルの建物の真ん中には5層を貫くス キップフロアの吹抜けを計画しました。京町屋に 見られる「火袋(ひぶくろ)」を現代的に昇華し、 2階の半屋外空間から取り入れられた外気により



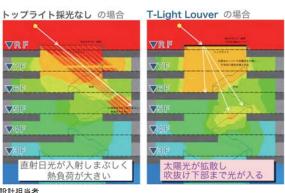
エコボイドと環境配慮技術

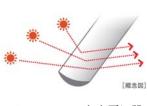
エコボイドによる自然換気シュミレーション

弊社保有技術「T-Lite Louver」によるあたたかな空間

太陽光発電

5層貫くスキップフロアの最上部はトップライトになっており、弊社保有技術である「T-Lite Louver」を設置した。太陽光の直射 日光を遮断することで熱負加の低減を図ります。このルーバー形状は当該敷地、建物計画、周辺環境等を検討し、通年の太陽高度 から最適な角度を製作、取り付けることで間接光を下層部までもたらす技術である。自然換気と合わせて、柔らかな光が降り注ぐ 交流スペースを実現した。





T-lite Louver を水平に設 置し、上部からの太陽光 を下層へ拡散させる試み を行った。



統括:平井浩之/建築:西崎暢仁、内藤多加志/構造:山崎英一、増野泰介、設備/根本昌徳、 湯浅孝、宮本敬介、入江俊介

下層部まで降り注ぐあたたかな光

主要な採用技術(CASBEE準拠)

- まちなみ・景観への配慮(京都府内産杉材の利用、京都創生のシンボルの形成、祇園祭山鉾の眺望利用スペース) Q3. 2.
- 地域性・アメニティへの配慮(エントランスホールの公共利用、オープンバルコニーの中間領域形成)
- 建物外皮の熱負荷抑制(Low-Eガラス採用、開口率40%による熱負荷低減、庇や格子の熱負荷低減)
- 自然エネルギー利用(エコシャフトによる自然換気、昼光利用拡散ルーバー、太陽光発電パネル) LR1. 2.
- LR1. 3. 設備システムの高効率化(全館LED器具採用、昼光利用センサー)
- LR1. 4. 効率的運用 (T-Green BEMSの採用)